

◆基本目標 16 世界に冠たる環境都市

①目指す姿1「脱炭素社会の早期実現に向け、更なる省エネルギー化に加え、北海道・さっぽろ圏の豊富な再生可能エネルギーの導入拡大や新たなクリーンエネルギーである水素エネルギーの活用のほか、ゼロエミッション自動車の普及が進んでいます。」に向けた施策

【充実強化すること】省エネルギー化の促進。再生可能エネルギー導入拡大。施設等における未利用エネルギーの利活用。ゼロエミッション自動車の普及促進。

- 環境性能の高い建築物の普及拡大に向けて、ZEB・ZEHなどに対する支援や光熱費等の見える化などを促進します。
- 家庭や事業所等における省エネルギー機器の普及拡大に向けて、省エネルギー機器への転換促進や導入支援などを行います。
- 市有施設における省エネルギー化を推進するため、市有施設のZEB・ZEH化や、照明器具のLED化や電力の見える化を進めます。
- 市民・企業などが使用する電力の再生可能エネルギー比率を高めるため、太陽光発電設備の導入支援や水素サプライチェーンの構築などに向けた取組を推進します。
- ゼロカーボンけん引するモデル地区を形成するため、大規模な再開発などが行われるエリアにおいて、スマートコミュニティの取組を推進します。
- 市有施設で使用する電力の再生可能エネルギー比率を高めるため、太陽光発電設備の設置など、再生可能エネルギー由来の電力の導入を率先して進めます。
- 市有施設におけるエネルギーの有効活用を推進するため、熱エネルギーや水力エネルギーなどを積極的に利活用します。
- 自動車走行など移動時における二酸化炭素排出量を削減するため、ゼロエミッション自動車の普及促進や水素ステーションの整備などを進めます。



②目指す姿2「エネルギー利用に関する世界トップレベルの取組が展開され、高い環境性能と強靱性を兼ね備えた都心が確立されています。」に向けた施策

【充実強化すること】エネルギーネットワークの整備促進。エネルギーマネジメントシステム(EMS)の導入促進。

- 都心の脱炭素化・強靱化に向けて、再開発等の機会を捉え、エネルギーセンターや熱導管などのインフラ整備を促進し、エネルギーの面的利用を拡大するとともに、建物の更新時には、建物の省エネルギー化や地域熱供給の活用、分散電源の整備を促進します。
- エネルギー利用の最適化に向けて、各建物へBEMSの導入を促進するとともに、エネルギー関連データを活用し、エネルギーセンターを核としたAEMSの導入を促進します。

③目指す姿3「誰もがごみの減量・再使用・リサイクルなどに積極的に取り組むとともに、近隣地域と資源を補完し支え合う地域循環共生圏の形成を含めた循環型社会が構築されています。」に向けた施策

【充実強化すること】広域での廃棄物処理やエネルギー利用に関する道内連携。道産木材の利活用促進。

- 家庭や事業所等から排出されるごみの減量などを推進するため、2Rを中心とした3R行動を促進します。
- 地域循環共生圏構築を見据え、地域資源の利用を促進するため、道産木材の利用促進や広域的なエネルギー連携などを行います。
- 持続可能な収集・処理体制を確立するため、清掃工場の更新や広域での廃棄物処理などを推進します。

④目指す姿4「誰もが経済・社会とのつながりを理解しながら環境保全や気候変動対策などに取り組んでおり、ライフスタイルの変革や技術革新が進んでいます。」に向けた施策

【充実強化すること】あらゆる世代の行動変容を促す取組。グリーン分野での成長を目指す事業者に対する支援の充実。

- 誰もが環境保全や気候変動対策などに取り組むため、あらゆる世代におけるSDGsを意識した学びの推進やライフスタイルの変革を促進するとともに、これらの取組を先導する人材の育成や支援などを行います。
- 経済と環境の好循環を創出していくため、環境に関する新技術の開発への支援を行います。

◆基本目標 17 身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち

①目指す姿1「森林、農地、公園や河川などの保全・創出・整備により、豊かなみどりのあるまちの中で、誰もが健康的で幸福感の高い生活を送っています。」に向けた施策

【充実強化すること】公園や水辺空間等の保全・創出。森林整備や農地保全。人材育成・担い手の確保に向けた支援。

- 暮らしに身近なみどりや水辺空間の更なる魅力・利便性の向上を図るため、新たなみどりや良好な水辺空間の創出・保全を行うとともに、保育・教育施設における緑化の推進や地域の緑化活動の支援などを行います。
- 良好な都市環境を維持・創出するため、市街地を取り巻く森林の整備や地域の特性に応じた農地の保全・活用を推進するとともに、森林整備や農地保全などに係る人材育成・担い手の確保に向けた支援を行います。

②目指す姿2「森林や公園などの身近なみどりが自然との触れ合いや人々の交流の場に加え、防災、経済活動、水源涵養、二酸化炭素の吸収などの多面的な機能を発揮し、都市の魅力やレジリエンス「自己回復力・強じん性」を高めています。」に向けた施策

【充実強化すること】みどりに関する情報発信の充実。Park-PFIなど、公園内への民間活力の導入。

- あらゆる世代が、暮らしの快適性を高めるみどりに触れ合う機会を創出するため、公園の再整備や機能分担などにより公園の魅力を上向きさせるほか、公園利用やみどりづくり活動への参加を促進するとともに、自然歩道等の環境改善などを行います。
- 防災機能、経済活動、にぎわい創出などみどりが有する多様な機能や魅力を発揮するため、公園内への民間活力の導入を推進するとともに、官民協働による雨水浸透緑化等の取組を行います。

③目指す姿3「生物多様性が広く理解され、地域本来の生態系が維持された中で自然と人が共生しています。」に向けた施策

【充実強化すること】野生動物（ヒグマ等）の市街地への侵入抑制策。円山動物園における教育機能の強化。

- 地域本来の生態系が維持された社会において、安心した市民生活をおくるため、野生動物(ヒグマ等)との共生や外来種による影響に関する普及啓発、市街地への侵入抑制策などを行います。
- 自然と人が共生する社会の実現に向けて、生物多様性に関する普及啓発を推進するとともに、円山動物園における教育機能を強化します。

